



今月のリポーター
清田 神馬さん(右)
矢野 成豪さん(左)

中央支所レポート 24 菊陽発見!!

5年未満の職員が、地域や農業、農協について興味・疑問・不思議など「何これ?」と思ったことをレポートします。



【自己紹介】

菊陽中央支所営農課資材係で資材配達などを頑張っています。入組5年目で釣り好きの清田と、入組7年目で家庭菜園が趣味の矢野です。2人とも菊陽町出身。配達をする際、小さくておしゃれなカフェを見つけ、気になっていたので訪ねてみました。



お店の前にビーチを思わせる白い砂

MATSU COFFEE (マツカフェ)

小さくておしゃれなカフェのオーナーは、なんと! ビーチサッカーの現役選手!! 松岡翔太さん(34)でした。松岡さんプロフィール=熊本県のビーチサッカーチーム「アヴェルダージ熊本BS」の日本代表選手。スポーツブランドエボレジャパン株式会社代表取締役。カフェ、ジム、人工ビーチなどを運営。菊陽町出身。というカッコイイお兄さんでした。今回はカフェについて聞いてみました。



松岡さん

青壮年部菊陽支部オリジナルTシャツです

Q1: どうしてカフェを?

A: コーヒーが大好きで、好きすぎてオリジナルのコーヒーを作りたいと探求。これだ! という豆、焙煎にたどり着き「おいしーい!」と感動。このおいしいコーヒーをいろんな人に飲んでもらいたいとお店をオープンしました。

Q2: お店のこだわりは?

A: たどりついたコーヒーを味わっていただくこと。ほかの豆は使わずホット、アイス、ゼリー、パフェもそのコーヒーで作っています。コーヒーが苦手な人には、京都から取り寄せた老舗の抹茶やほうじ茶もありますよ。おすすめはもちろん「オリジナルブレンドコーヒー」そして、ボリュームたっぷりの「コーヒーパフェ」です。

Q3: ではなぜ、大通りでなくわかりづらい場所にあるんですか?

A: 実はそれも一つのこだわりです。カフェがあるらしいけど何処?と、ワクワクしながら探してもらいたいし、小さくて静かな雰囲気、隠れ家感を楽しんでもらいたいですよ。そして、ビーチ感も少し味わってほしいとお店の前の狭いスペースですが、10トンの砂を敷きました。いかがでしょう。



800トンの砂を敷き詰めた人工ビーチのコート

まとめ

こだわりと遊び心たっぷりの松岡さん。がっちりとした大きい身体だけれど、やさしい笑顔が印象的でした。まなま菊陽店の近くには、800トンの砂を敷き詰めた人工ビーチコートも整備されており、練習や試合も行われています。大津高校サッカー部から海外チームで活躍。トレーニングでやってみたビーチサッカーにはまり転身したとのこと。矢野は、一度ビーチサッカーを観戦したことがあります、迫力がすごかったです。清田は、是非今度観戦してみたいと思いました。

服のブランドも立ち上げておられ、青壮年部菊陽支部はオリジナルTシャツを制作してもらい菊陽の夏祭りのイベントや、行事等で着用しています。また、松岡さんはチームの皆さんと「まなまキッチン」をよく利用してくださるそうで「セルフ方式と、肉がほんとにおいしい」とほめていただきました。松岡さんの行動力と探求心を見習って、僕たちも自己研鑽に励み仕事に活かしていきたいと思いました。 ※松岡さんは菊陽町のPR大使で、お母さんは准組合員さんです。



ビーチサッカーのこともいろいろ聞きました

